



楽しく多言語に触れることで、 お子さまの可能性が広がります

ママやパパたちの語りかけから、自然にことばを覚える赤ちゃん。そこで身に付くことばは、周りにある言語のすべてをとらえています。世界が多様に変化する中、多言語に慣れ親しんだ経験はお子さまにとってかけがえない財産となるはず。ことばを覚えるメカニズムとは、そして多言語を習得する楽しさとは。東京大学で言語脳科学を研究する酒井邦嘉先生にお話を伺いました。



どんな人間のことばも 子どもは話せる力がある

学校で国語や英語を学んだ経験から、「ことば」というのは勉強して覚えるものだと思っ
ている方が多くいらっしやいま
す。でも、赤ちゃんを思い浮か
べてください。文法も発音も教
わっていないのに、ママやパパ、
家族みんなの語りかけを聞き、
赤ちゃんは自然と話せるようにな
りますよね。そこからわかる
通り、人間には生まれながらに
してことばを身に付ける能力が
備わっています。日本語を聞いて
育てば日本語、英語を聞いて
育てば英語。言語や方言などの
違いは関係なく、赤ちゃんにと
って人間が話すことばはすべて
で、丸ごと一つの人間語。で
す。赤ちゃんはその人間語を、
母語（最初に接する言語＝第一
言語）として身に付けます。周
りにある言語のすべてをとらえ
ているのです。

では、母語にはいろいろな言
語が混ざっているとはいけないの
でしょうか。いいえ、そんなこ
とはありません。国際結婚の家
庭のお子さまが自然とバイリン
ガルに育つように、両親や、一
緒に生活している家族が違う言
語を話していれば、多言語がす
べて母語になります。よく「異
なる言語が複数あると子どもが
混乱するのではないか」という

心配を聞きますが、例えばママ
が関東出身、パパが関西出身の
家庭のお子さまはどうでしょ
う。当たり前のように方言を使
い分けることができますよね。
語尾やイントネーション、そし
て単語が違うからといって混乱
することはありません。教わら
なくても、お子さまは周りに合
わせてことばを使い分ける力を
持っています。多言語に触れる
ということは、ことばを選択す
るオプションが豊富になるとい
うこと。複数の言語を話す環境
が整っていれば、一部の言語が
おろそかになるということはな
いのです。

多言語にオープンな 環境づくり

母語（第一言語）に対し、後
から学習して覚えることばを第
二言語といいます。多くの日本

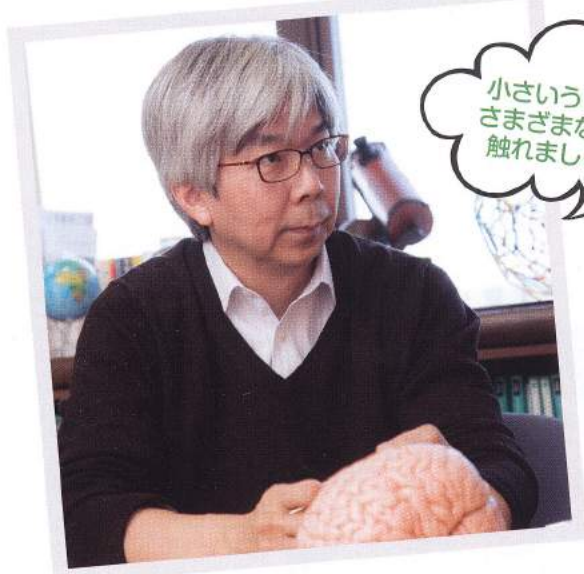


お話を伺ったのは！

酒井 邦嘉 先生

1964年生まれ。東京大
学大学院総合文化研究科
教授。理学博士。専門は
言語脳科学。著書に「言
語の脳科学」（中公新書）、
「科学者という仕事」（中
公新書）、「脳の言語地図」
（明治書院）、「ことばの
冒険」（明治書院）など。





小さいうちこそ、
さまざまな言語に
触れましょう！

人にとって、最初に触れる第二言語は英語でしょう。脳が日本語に慣れてしまっているから、第二言語の習得にはストレスを感じるようになります。日本語で考え、話す癖がついてしまっているから、他のことばを受け付けるのが難しいのです。音楽にしろスポーツにしろ同じですが、一度身に付けてしまった癖は矯正するのが大変。他の言語を習得しやすくするためには、無理に母語ひとつに固めようとせず、多言語に対してオープンな環境づくりが望ましいといえます。

報を持っていきます。ですから、先天的に備わっている「聞く・話す」能力と、後天的に学習して覚える「読む・書く」能力は全く別のもの。アルファベットの読み書きは後回しで構いません。赤ちゃんがことばを覚えるのと同じプロセスをたどることが、第二言語習得の早道です。お子さまのためにできることは、ことばを教え学習させることではなく、親と一緒に多言語に触れられる環境をつくってあげること。しかも、身のまわりで、自然に、触れられるといいですね。そのためにも、自ら多言語に興味を持つところから始めてみてください。難しく考える必要はありません。例えば料理はどうでしょうか。フランス料理や中華料理には、料理名や調理法、調理器具など、元のことばでない表現ににくいものがあり、第二言語に興味を持つ良いきっかけとなります。外国の映画やドラマを繰り返し観るといのもいいでしょう。まずは身近なところから、お子さまと一緒にいろいろなことばや文化に触れてみてください。

楽しみながらが 多言語習得のポイント

正解やテストの点数を気にすることなくリラックスして楽しむことが、第二言語や多言語を習得するポイントです。ヒッポファミリークラブのように、ゲ

ームをしたり、音楽にあわせて体を動かしたりしながら、自然と複数のことばを覚えられたいうのは理想的といえるでしょう。幅広い世代の人たちと出会い、交流できるというのも貴重な機会です。

「英語もできないのに多言語なんて…」という方もいますが、多言語に触れることで英語も習得しやすくなりますし、スペイン語や韓国語の方が自分にとって英語よりも親しみやすいと気付くこともあるでしょう。何より、多言語を身に付けることで、多角的なものの方や日本語を越えた表現のしかたが身に付き、発想が豊かになります。できるだけ相手と同じことばで考え、話すことで、相手を思いや

る心が生まれ、お互いの理解も深まることでしょう。

どんな国の、どんな人にも開かれた心を育む多言語の力。これからますます世界が多様に変化する中で、多言語に接した経験はお子さまの確かな財産になることと思います。多言語の環境をつくってあげること、お子さまの将来の可能性を広げてあげてください。

多言語で、世界に開かれた心を育む ヒッポファミリークラブ

赤ちゃんがことばを習得するのと同じプロセスで、複数の言語を自然に身に付けられる「多言語の環境づくり」を進めるヒッポファミリークラブ。その活動の場は全国に700カ所以上あり、多くの世代の人たちが楽しみながら多言語に触れ合っています。親子ホームステイなど、国際交流プログラムも豊富。幼少期から、世界中の国の人や文化に自然に親しむことができます。



海外からのホームステイ受け入れの様子。赤ちゃんのいる家庭でも気軽に国際交流できます。

多言語で楽しく話すお子さま。ママが一緒だから心強い！

世界の音楽でダンス！楽しみながら、多世代とコミュニケーション。



お子さまと一緒に始めよう！
親子で多言語に触れるとうれしいことがいっぱい。興味を覚えた方は、多言語の環境づくりを進めるヒッポファミリークラブをチェックしてみてください！

資料を差し上げます

ヒッポファミリークラブの詳しい資料を差し上げます。巻末の「合同資料請求ハガキ」またはQRコードからご請求ください。抽選でミキハウスの「ポーダブルケット」を5名様にプレゼント！詳しくは5ページをご覧ください。



PRESENT

脳の不思議を説明する酒井邦嘉先生の絵本「脳でわかるサイエンスシリーズ（ことばの冒険・こころの冒険・脳の冒険）」を3冊1セットで、5名様にプレゼント。112～113ページをご覧のうえ、ご応募ください。

ヒッポファミリークラブが講座を開催！

「ことばと人間」をテーマに、物理学、音楽、アートまで、各分野で活躍されている研究者による講座を開催しています。今回は中村桂子先生（生命誌研究館館長）と酒井邦嘉先生（東京大学大学院教授）に講演していただきます。

日程：2019年3月21日（木・祝）
・中村桂子先生 10:30～12:30 ・酒井邦嘉先生 14:00～16:00
会場：すみだリバーサイドホール（東京都墨田区）
聴講対象者：全世代向け（親子参加歓迎）
要事前申込み：0120-557-761（ヒッポファミリークラブ）

